

(一般質問)

質問日	令和7年12月9日(火)		質問方式	分割方式			
質問順位	8	会派名	自由民主党浜松	議席番号	33	氏名	須藤 京子
表 題	質 問 内 容					答弁者の職名	
1 フェアトレードについて	<p>本市は、2017年にフェアトレードタウンに認定されて以来8年が経過し、2度の認定更新を経ている。来年は認定更新3度目を迎え、翌2027年にはフェアトレードタウン認定10周年を迎える。フェアトレードタウン認定後は、くらしのセンターにおいて、中学生向けの教材と小中学校発達支援学級向けの教材を作成し、共に内閣府特命担当大臣賞を受賞している。</p> <p>そこで、この教材を活かした学校教育現場での取り上げ方と、フェアトレード製品の学校給食での取り上げ方について伺う。</p> <p>(1) 市内中学校の授業、また小中学校発達支援学級の授業での取扱いについて</p> <p>(2) 市内小中学校における出前講座の実施状況と今後について</p> <p>(3) フェアトレード製品を使用した給食を提供している学校数の変遷について</p> <p>(4) 自校方式でフェアトレード製品を使用した給食を提供している学校数について</p> <p>(5) 学校給食におけるフェアトレード製品使用に対する評価と課題、今後の展望について</p>					野秋教育長 " 吉積学校教育部長 " "	
2 誰もが活躍できる社会のために	<p>2016年4月に「女性活躍推進法」が全面施行され、女性活躍の時代が到来かと思われたが、まだまだ課題は多い。</p> <p>しかし、少子高齢社会の到来による労働力不足を背景に、本市では女性ばかりではなく外国人や高齢者も視野に入れて、彼らが働きやすい環境整備に積極的に取り組む事業所を認定し、公表する制度を設けている。</p> <p>そこで、こうした宣言事業所認定制度について伺う。</p> <p>(1) 子育て応援宣言事業所・外国人材活躍宣言事業所・高齢者活躍宣言事業所のそれぞれについて、その目的と事業所数の変遷及び行政からの認定条件等、これら事業所の現状と課題について伺う。</p> <p>(2) 特に高齢者活躍宣言事業所については、これまで仕事を続けてきた人が継続して同様の仕事に就く場合が想定される。しかし、当然のことながら加齢とともに就労を継続するうえでのサポート体制については配慮が必要ではないかと考えるが、宣言事業所に対して求めているサポート体制について伺う。</p> <p>(3) 障がいのある人たちも就労の機会を得て自立して暮</p>					北嶋産業部長	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
3 本市職員の再登用の途について	<p>らすことが重要であると考えているが、障がい者活躍宣言事業所認定制度導入の予定はないか伺う。</p> <p>本市では、健康上の理由やライフステージ上の課題のために退職や会計年度任用職員への転換を選択される方々もおり、正規職員から会計年度任用職員へと転換された方は、20名いると聞いている。やむを得ない事情で本市を退職した職員が再度、本市職員として復帰できる方法があれば、即戦力となる人材確保の手段ともなり、職員のウェルビーイングにもつながると考える。また、他都市では退職者に限定したカムバック採用等を実施している都市もあると聞く。</p> <p>そこで、退職した職員が復帰できる制度の現状と今後に向けた取り組みについて伺う。</p>	中野市長
4 愛護動物と共生するまちづくりのために	<p>近年では高齢化や核家族化といった社会の変化に伴い、ペットを家族の一員として迎える家庭が増加している一方、ペットの飼育に関する問題も浮かび上がっている。例えば、不適切な多頭飼育に関する問題は、飼い主自身の生活上のトラブルが原因であるケースもあるが、動物に関わるトラブルとして、動物愛護教育センター（以下「センター」という。）に持ち込まれるケースも多い。センターでは持ち込まれる課題のうち、犬や猫に関するケースについては、協力ボランティアの助けを借りて対応に当たっていると聞く。</p> <p>そこで、センターの役割とボランティア等の活動について伺う。</p> <p>(1) 協力ボランティア登録団体について</p> <p>ア 協力ボランティア登録団体の概要及び登録認定の要件について</p> <p>イ 協力ボランティア団体の適切な飼養管理の確認方法について</p> <p>(2) 動物愛護推進協議会及び動物愛護推進員の役割と現在の活動内容について</p> <p>(3) 動物愛護週間やペット防災の取り組みについて</p>	板倉保健所長
5 野生鳥獣との向き合い方	<p>近頃は、これまでになく全国で頻繁に市街地に出没するクマの目撃情報が聞かれる。広大な中山間地を擁する本市もご多分に漏れず、クマ出没の知らせは日を追って増えている。また、市街地では同じく野生鳥獣であるムクドリ等の糞等の衛生面や鳴き声による騒音など、苦情は後を絶たない。中心市街地に飛来するムクドリについては、振動や光による飛来の抑制を行い、道路清掃を定期的実施するなど、道路環境の維持にも努めているが、効果的な対策には成り得ていない。野生鳥獣との共存を</p>	下位農林水産担当部長

表 題	質 問 内 容	答 弁 者 の 職 名
	<p>考える上で鳥獣保護と管理の双方に配慮した取り組みが必要だと考える。</p> <p>そこで、野生鳥獣の適切な保護と管理に向けた考え方について伺う。</p>	